

沖縄日傘愛好会と“肥満化”の関係

2012年5月、那覇市の中心部で日傘を差す男性の集団が現れた。翁長雄志市長や沖縄日傘愛好会の渡口彦邦会長ら約50人が、沖縄都市モノレールの「おもろまち駅」から市役所仮庁舎までパレードするという、日傘を使った通勤スタイルを訴求するイベント「歩きたくなるなはのみちプロジェクト」のワンシーンだ。

沖縄日傘愛好会は、渡口会長と湖城英知さん（沖縄都市モノレール前社長）が2006年に設立。2003年に開業した同モノレールの利用促進を狙いの一つに、発足以来こうしたイベントを展開し、男性による日傘の普及に力を入れている。

ただし、沖縄日傘愛好会にはもう一つのテーマがある。沖縄日傘愛好会の役員で沖縄都市モノレールに勤める上原悟さんは話す。「沖縄は戦後自動車が急速に普及し、今では家族全員がそれぞれ“マイカー”を持つ『超』車社会になった。歩く

習慣はほとんどなく、タバコ一つ買いに行くにも常に移動は車。その影響で運動不足となり、メタボ率も急激に増えている」。

長寿のイメージが強い沖縄。女性は平均寿命1位を長年守り、2010年の厚労省の調査でも3位と依然として上位だ。一方、男性は1985年まではトップだったが、1990年に陥落後2000年には一気に順位を下げ（26位）、2010年調査では29位。食生活の欧米化などに加え、運動不足も一因と見られ、「沖縄の強烈な陽射しを防ぐ日傘を男性も差して、少しでも外を歩く習慣を身に付けてもらうことが大きな目的」（上原さん）。つまり、肥満化が進む沖縄男性の健康増進も重要なテーマというわけだ。

ところで、上原さんも日傘を差し始めた当初は、女性からの視線が気になったという。しかし、紫外線を防ぐ必要性は男女を問わない。思い切って日傘習慣を実践し訴求も続けたところ、徐々に認知

も広まり、パレードなどへの参加者数も増えてきた。2年前からは事務局を沖縄都市モノレールから那覇市観光協会に移し、Webサイトも開設。活動を積極化させている。

上原さんによると、車社会になる前の戦前の沖縄では、男性も日傘を当たり前のように差していたという。渡口会長は「7年間活動する中で、最近では街でも日傘を差して歩く男性を見かけるようになった。今後は若い世代にも普及させていきたい」と話している。

沖縄日傘愛好会のWebサイト
(<http://www.otokohigasa.com/>)

